

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		臨床実習Ⅱ			2		
開講学期		科目責任者		副責任者			
1 学期		森谷 卓也		桑原 篤憲, 西村 広健			
目的							
<p>臨床実習Ⅱ（看護実習）は、早期臨床体験実習の一環として実施される。</p> <p>医学的知識が少ない低学年時においては、医療現場を医療者でもなく患者でもない第三者の立場から観察することができる。看護実習を通して、患者やその家族、メディカルスタッフとのコミュニケーションをとる中で、医学生としての自覚を持ち、医師を目指すことへの動機付けを目的とする。また、将来医師を目指す自分自身が今後何をなすべきかを自覚することも目的の一つである。</p>							
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実習を通じて、プロフェッショナリズムとは何か考えることができる。 2. 患者・メディカルスタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。 3. 患者を含めた他者に思いやりをもって接することができる。 4. 看護師の業務見学を通し、多職種の業務内容を理解する。 5. 多職種の連携による医療の現場を体験し、多職種連携の重要性を理解する。 6. 将来自らが目指す医師像を言語化することができる。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	6/27	木	6	講義	西村広	病理	看護実習に関する全体ガイダンスと事前課題の説明
2~7	7/ 8	月	1~6	演習	桑原・西村広	総合臨床病理	プロフェッショナリズムについて考える、他
8~13	7/ 9	火	1~6	演習	桑原・西村広	総合臨床病理	多職種連携について考える、他
14~19	7/10	水	1~6	実習	西村広	病理	看護実習 1 日目
20~25	7/11	木	1~6	実習	西村広	病理	看護実習 2 日目
26~31	7/12	金	1~6	演習	桑原・西村広	総合臨床病理	全体振り返り・まとめ
評価方法							
<p>[レポート]25%</p> <p>[小テスト]10%</p> <p>[実習点]50%</p> <p>[出席状況（受講態度）]15%</p> <p>[評価方法]小テスト、出席・受講態度評価、論文・レポート、実習態度評価</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて							
<ol style="list-style-type: none"> 1. レポートは、教員の指示に従って作成すること。レポートに生成 AI を使用する場合は、「川崎医科大学の生成 AI 取扱い指針」に従い、使用した生成 AI の種類、引用箇所、prompt 内容を提示すること。 2. 生成 AI の内容には虚偽が含まれている可能性があるため、必ず自ら根拠や裏付けを確認すること。 <p>看護実習では、実習場所（病棟や外来）での振り返りに加え、M-610 教室での全体振り返りを実施する予定である。提出されたレポートはルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの表を返却する。</p>							
教科書							
(特になし)							
参考書							
(特になし)							
準備学習（予習・復習等）							
<p>予習：</p> <p>6 月 27 日の全体ガイダンス時に、予習する内容（事前課題）を周知する。</p> <p>7 月 8 日の演習開始時までに各自準備をする。</p>							
講義についての注意事項							
<p>「臨床実習Ⅱ」は全出席を原則とする。体調不良、忌引き等で欠席した場合は、補充実習・レポート等で補うこととする。欠席した場合、補充実習やレポートの内容について、科目責任者に問い合わせをすること。</p> <p>患者や患者の家族、メディカルスタッフの立場や状況を考えたうえで、各自行動をすることが求められる。</p>							

昨年度からの変更点・改善項目

2020年度・2021年度・2022年度は、コロナ禍のため、「臨床実習 II」は行われなかった。

2023年度は、4年ぶりに臨床実習 II を実施することができた。

基本的な流れ（組み立て）は2023年度と同様であるが、レポートの数が多かったこと、振り返りの回数が多く間延びしたことなどが学生からのフィードバックで挙げられた。そのため、以下のように変更する。

1. グループワークを円滑に進めるために必要なレポートと評価するレポートをわかりやすく提示する。
2. 評価するレポートについては、ルーブリックを用いる。
3. 振り返りの回数や方法を変更する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

この科目は主として、卒業時到達目標（卒業時コンピテンス）の「医師になるための基本的な資質」である、「プロフェッショナリズム」と「コミュニケーション能力」の達成に向けて設定されている。

ナンバリング

DCCG223